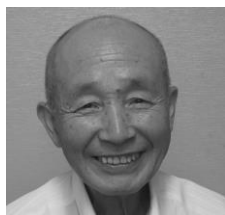


灯台



子どもたちの未来は！



新自由主義の台頭で、大人世代の貧困と格差社会が問題になります。しかし、次代を担う子どもたちの現状はどうか、平和のこと、教育のこと、働かされ方の問題等々、どれをとっても現実に行進している政治状況は「子どもたちの未来」に明るい展望があるとはいえませぬ。現在、子どもたちが教育現場で受けている教育は、歴史を改ざんした教科書により反動的になっています。

私が参加した「第7回『日の丸・君が代』問題等 2017年全国学習・交流集会」では、何よりも平和の危機が子どもたちを襲ってきていることです。「憲法」の危機は勿論ですが、改悪される前に、既に「安保法制」成立直後から、国家・地方自治体・学校・そして自衛隊が協同で、子どもたちの教育をむしばんでいることです。

子どもたちに、残せるものがあるとすれば、「憲法」の理念であり、それを抛り所とする「平和で暮らしやすい社会」のはずでした。それだけに成立阻止に全力をあげなければならなかったのが「安保法制＝戦争法案」でした。

現実には戦争への準備が急速に展開され、教育現場で、自衛隊での「隊内生活体験」目的を「宿泊防災訓練」と言い換えられ、子どもたちに「銃」を持たせるなどとても防災訓練といえない、限度を超えた事が行われています。そのためにも成立した「特定秘密保護法」「安保法制」「共謀罪」の廃棄の闘いが、阻止する闘いよりもいかに労力がかかろうとも、「子どもたちの未来のため」に求められているのだということです。

労働大学企画編集委員 飯田 邦雄